

感震ブレーカーで電気火災を防止する!!

地震による火災の過半数は電気が原因というデータがあります。

東日本大震災の本震による火災全111件のうち、原因が特定された108件の54%が電気関係の出火でした。

地震が原因の電気火災とは、「地震の揺れに伴う電気機器の転倒等により可燃物に接触し起こる火災」、「停電後に電気が復旧する際に、破損や転倒した電気機器やその配線が通電時に発火することによる火災（通電火災）」があります。

これらの電気火災には感震ブレーカーの設置が効果的と言われています。

感震ブレーカーとは地震時に設定以上の揺れを感知した時に電気を自動的に止める器具で、外出時やブレーカーを落として避難することが困難な場合に電気火災を防止する有効な手段となります。

感震ブレーカーには様々なタイプがあり、ご家庭の状況により使い分けられます。

※下図参照（出典：総務省消防庁）

分電盤タイプ〈内蔵型〉

分電盤に感震遮断機能が内蔵されています。地震が発生し、大きな揺れを感知すると、ブザー音がなります。夜間の避難などを考慮し、すぐには電気を遮断しない機能を持つ機種もありますが、その場合には感知して一定時間後、ブレーカーが落ち、電源を遮断します。設置には電気工事が必要です。



分電盤タイプ〈後付型〉

既設の分電盤に後から設置できる後付型です。設置には電気工事が必要となります。また、分電盤の形状や種類によって、取付けが可能なものと不可能なものがあるので確認が必要です。



コンセントタイプ

内蔵されたセンサーが地震を感知するとコンセントからの電気を遮断します。電気が遮断されるのはこのコンセントに接続された家電のみですので、特に出火の危険性の高い電熱器具が接続されているコンセントを中心に設置すると効果的です。避難用の照明や在宅用医療器具等、地震時においても電力供給が必要な機器への電力供給を継続することができます。コンセントタイプには差込型の他に埋込型もあります。



簡易タイプ

地震の振動で主幹ブレーカーをOFFに切り替えます。パネで動作するものや、おもりで動作するもの等があります。パネで動作するものは地震を感知すると、中のパネの力でバンドが作動し、物理的に主幹ブレーカーをOFFにします。おもりで動作するものは、地震の振動でおもりが落ち、つながったひもで主幹ブレーカーをOFFにします。



国の「首都直下地震対策検討ワーキンググループ報告書（令和7年12月）」では、感震ブレーカーの普及が進むことで、大規模地震が発生したときの焼失棟数を大幅に削減できることが示されました。このことを受け設置促進事業として補助金制度を設けている自治体もあります。ぜひこの機会に設置を検討してはいかがでしょうか。

〈防災士 荻野 勝也〉